

円形水路補修工の作業手順

制定・改定日 2022.2.18

項 目	内 容	留 意 事 項
準 備 工	<ul style="list-style-type: none"> ・作業打合せ(KY活動) ※現場責任者は、簡易風速計を携帯する。 作業内容の確認 作業人員の確認 保護員の点検 使用機械、資材、工具の点検 	<ul style="list-style-type: none"> ・資機材等落下災害及び飛散防止ネット転倒に関するKY活動を必ず行い実施する。 安全打合せ書による指示書の内容確認 業務マニュアルの活用 KY活動 その日使用する手持ち式振動工具に関するKY活動の実施及び手持ち式振動工具取扱説明書を用いて工具取扱確認を実施。 安全データシートの確認
カッター工	<ul style="list-style-type: none"> ・保護員の確認 規制内容の確認 ・現場KYと安全確認(資機材等の落下災害防止、飛散防止ネット転倒防止) コンクリートカッターで施工予定ラインに沿って円形水路を切断する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現地打合せを行い、作業方針を関係者へ周知する。 ケーブルの位置を確認し、ケーブル側へカッターの歯を向けない。 機械使用後は、水抜きを行い、歯止めをかって路肩に置く。 ブレッド付近には、手、足を近づけない。 手持ち式振動切削工具は切削手袋・切削防護衣を着装する。 ・有資格者による作業を行う。(ユニック操作、玉掛) ・車線反対側の安全な場所で行い、留め金具等にてパネル連結を確実に行う。 ・四隅に4人配置し、監視員の合図で移動を行う。(一般車に注意) ・車線反対側の両柱上部をロープにより車両または防護柵等へ固定する。 且つ、同柱の1/3の位置にカラビナ付き土袋(10kg)を2袋吊す。
はつり工	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニックにて荷台から飛散防止ネット(重量タイプ)を車線反対側に吊り下ろす。 飛散防止ネット(重量タイプ)の組立 ・施工箇所へ移動 ・ロープ及び土袋による転倒防止対策実施 ・現場での確実な安全確認の実施体制(実施方法) ■点検項目 ①ロープ固定： 控えの位置は適切か、たるみがないか、注意喚起がされているか ②土袋固定： 設置位置は適切か、設置数量は適切か、土質量(10kg)は適切か ③飛散防止ネット： 隙間がないか、破損していないか、設置位置は適切か ■現場での悪天候等による実施判断 ①前日： 天気予報により工事担当者が判断 ②当日： 天気予報により現場責任者と工事担当者が判断 ③現場での悪天候等： 作業中断する場合は、両柱に土袋を1袋追加する。また中止にあっては、現場責任者から工事担当者へ報告を行い、工事担当者はHCSと調整の上、現場責任者へ中止指示を行う。 コンクリート損傷部分をブレーカー、ピック等を使用して、はつり取り はつり終了後は、綺麗に清掃する。 取り壊し検査を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・点検項目①～③に沿って作業従事者全員で安全確認を実施する。 ※現場巡回、安全ハットロールにおいても、必ず安全確認を実施 ・悪天候とは、強風:10分間の平均風速が毎秒10m以上の風、大雨:降雨量が50mm以上の降雨、大雪:1回の降雪量が25mm以上の積雪をいう。 防塵マスク、保護メガネ、耳栓を使用する。 橋梁下に落下物が無い様にシート、ウレタンフォーム等で養生を行う。 ブレーカーの外れ止めの設置
アンカー・鉄筋設置工	<ul style="list-style-type: none"> 所定の位置・深さまで削孔し、アンカーボルトを打ち込む。 アンカーボルト・鉄筋を固定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 削孔等により緩んだコンクリートは、撤去する。 アンカー穴は所定の深さまで削孔する。 有資格者による、機械作業を行う。 鉄筋切断時はキックバックに注意する。 手持ち式振動切削工具は切削手袋・切削防護衣を着装する。 使用しない工具は、コンセントを抜き取らないようにする。
型枠工	<ul style="list-style-type: none"> 所定の高さに設置する。 必要箇所型枠を設置する。 鉄筋の配筋を検査する。 	<ul style="list-style-type: none"> 有資格者による、機械作業を行う。 木材切断時はキックバックに注意する。 手持ち式振動切削工具は切削手袋・切削防護衣を着装する。
超速硬コンクリート打設	<ul style="list-style-type: none"> コンクリート打設面を清掃し、水を散布し湿らせる。 また打設後は、早く金鐘仕上げを行うこと。 仕上げ時、面取りを行うこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 車輛の移動時には、必ず誘導を行う。 センターライン付近の作業は、一般車に注意する。 保護めがね着用 既存円形水路と高さ合わせる。 シート養生は、風等での飛散防止処置を行う。 開放可能強度 24N/m²以上
養 生	<ul style="list-style-type: none"> 養生は、通常3時間行う。 皮膚養生剤及びシート等で養生を行う。 	
後片付け	<ul style="list-style-type: none"> 使用した道具、機材、余った材料等は、トラックに積み込み、最後に竹ぼうきなどで清掃する。 	<ul style="list-style-type: none"> 使用した道具等は、現場に忘れ物が無いように確認する。 はつりかす、材料かすが無い様に、綺麗に清掃する。

作業編成(標準)		機材		資材		安全器具・保護具	
現場責任者	1名	コンクリートカッター	飛散防止ネット(重量)	超速硬コンクリート	アンカー	ヘルメット	消火器
作業員	3名	水タンク	土嚢、ロープ	溶接棒		反射(自発光)チョッキ	
現場監視員	1名	コンプレッサー	ハンマードリル			警告	
先端監視員	1名	ミキサー	溶接機			防塵マスク	
		スタップ				保護メガネ	
		リボンロード				耳栓	

■注意事項(共通の指図書事項)

- 1.作業に適した保護具を着装する。
- 2.センターライン付近の作業は十分注意する。
- 3.各作業は、有資格者による作業を行うこと。
- 4.はつり、清掃時、の小石等の一般車への飛散には、十分注意を行う。
- 5.火災防止処置を行う事。(消火器の設置)
- 6.保管等は、平積で保管する。
- 7.手持ち式振動工具については取扱を十分理解し、使用する。
- 8.作業で使用しない工具は、発電機を切るかコンセントを抜き、誤操作がおこらないようにする。
- 9.手持ち式振動切削工具は切削手袋・切削防護衣を着装する。
- 10.一人作業の禁止
- 11.現場で作業手順を変更する場合は作業を中止して、現場責任者から工事担当者へ報告を行い、工事担当者はHSCと調整の上、現場責任者へ指示をだすものとする。

